

統 計

民間企業のみた 80 年代に開発されと思われる
主な技術・製品

科学技術庁が 1979 年に実施した「民間企業の研究活動に関する調査」によつて、民間企業のみた 80 年代に開発されと思われる主な技術・製品は下表のようになっていゝ。表にみられるように半数近くはエネルギーに関連する技術であり、次いでライフサイエンス、エレクトロニクスとなつていゝ。これらに続くものとしては海洋、大深度地中等の未利用空間の利用技術、新材料などである。

エネルギー関連では、「深海における石油掘削、生産技術」、「重質油の利用技術」、「石炭の液化技術」などのほか、食品製造工程、建築の省エネルギー、自動車の低燃費技術などが多業種で期待されていゝ。ライフサイエンスは食品工業、総合化学繊維工業、医薬品工業で注目されていゝ。エレクトロニクス関連では、「音声合成・音声認識を利用した機器」、「光電子技術」、「PCM 技術(パルス符号変調技術)」、「自動車部品の電子化」のみであるが、例えば CCD(電荷結合素子)テレビカメラは通信・電子・電気計測器工業以外に電気機械器具工業、精密機械工業、運輸・通信・公益業でも開発が期待されており、多くの業種でエレクトロニクス関連の技術が進むと考えられていゝ。

(科学技術庁編：昭和 55 年版科学技術白書)

民間企業のみた 80 年代に開発されと思われる
主な技術・製品

| 業 種 名 | 技 術 ・ 製 品 名 |
|------------------------------|---|
| 鉱 業 | 深海における石油掘削、生産技術 |
| 建 設 業 | ソーラー・システム 海洋構造物の建設技術 省エネルギー・システム 大深度地中構造物の建設技術 |
| 食 品 工 業 | 濃縮、乾燥、結晶工程等の省エネルギー技術 遺伝子工学利用技術 |
| 総 合 化 学 業 繊 維 工 業 | C ₁ 化学技術 機能性高分子材料 生化学反応を利用した有機合成技術 重質油の化学原料としての利用技術 |
| 医 薬 品 工 業 | 遺伝子工学利用技術 より有効な制ガン剤 インターフェロン 抗ウイルス剤 |
| 石 油 製 品 ・ 石 炭 製 品 工 業 | 重質油の利用技術 石炭の液化技術 |
| ゴ ム 製 品 工 業 | 低燃費用軽量タイヤ |
| 通 信 ・ 電 子 ・ 電 気 計 測 器 工 業 | 音声合成・音声認識を利用した機品 光電子技術 PCM 技術 |
| 自 動 車 工 業 | 低燃費技術 自動車部品の電子化 代替燃料用エンジン |

編 集 後 記

▶ さらびやかな祇園祭も終わり、盛夏の季節を迎えました。夏といえば、甲子園の高校野球、大文字の送り火…と関西での諸行事が話題となりますが、今秋の講演大会も久しぶりに京都で開催されることになり、盛会が期待されます。

新しい企画と方針のもとにスタートした「鉄と鋼」も、おかげさまで好評で、ここに第 10 号発刊の運びとなりました。

ところで、最近、査読などを通して感じることは、論文などの投稿原稿に「日本語の誤り」が目立つてきたことです。論文内容はともかくとして、従来慣用されていない語句や表現が安易に用いられていたり、文意不明の文章、さらには誤字・脱字などで編集委員を悩ますケースが、このところ増えてきていゝ。もち

ろん、これは投稿原稿全体からみればほんの一部にすぎませんが、このことから、最近の日本語の乱れを嘆く国語学者や教育関係者の気持ちが何となく分かるような気がしゝ。欧文誌「Trans. ISI」はもちろんのこと、「鉄と鋼」も海外で読まれ引用される機会が急速に増えつつあり、このことは我が国の鉄鋼学術のレベルの高さを示すものとして喜ばしい限りですが、この時にこそ、我々は日本語を大切にし、「正しい日本語」の使用を心掛ける必要があるのではないでしゝか。本誌掲載の「良い英文を書くために」のシリーズは好評をいただいでいゝようですが、「良い日本文を書くために」のシリーズが編集委員会で企画されることのないよう、会員の皆様のご協力のほどお願い申しあげる次第です。
(Z.M.)